

群馬県立桐生高等学校（通信制課程）学 校 評 価 一 覧 表 ② （令和４年度版）

（様式２）

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校 づくりに努めて いますか。	1 充実した学びの場を生 徒に提供するという本校通 信制の使命を共通の認識と し、特色ある教育活動を行 っていますか。	①桐高通信制に入学して良かった(学 校生活に満足している)と思ってい る生徒が８０％以上である。	A	A	A	感染症予防に注意しながら、学習ガイダンス の充実や、生徒の実態を考慮しながら行事企 画運営に努めた。最終的には生徒の個別性を 重視した指導を行った。 係内や係間での意思疎通を図り、各教員が重 点目標を意識し業務を遂行した。	Ⅰ 特色ある学校づくりについて ・多様な生徒を受け入れている通信制 への関心とニーズは高まっている。通信 制の特徴を活かして学びの継続と高 校卒業資格を得ることが、通信制の目 的だが、さらに一人一人の生徒が進路 実現できるように工夫してほしい。	生徒ひとりひとりが卒業に向けて、主体的に学 習を進められる学校づくりを推進する。行事等 を通し「私たちの学校」という意識の向上を目 指す。 係内や係間での協議・情報交換等を密に行う。 必要に応じて根拠となる法令等を確認し、重点 目標の達成を目指す。
		②通信制職員全員がガイドライン (欄外※参照)を踏まえ、本校通信制の 教育課題について認識し、業務改善 に努める。	A	A	A			
Ⅱ 生徒の意欲的 な学習活動につ いて適切な指導 をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指 導を行っていますか。	③自らの学習進行を定期的に確認し、 計画的に学習を進めていると思ってい る生徒が８０％以上である。	C	C	C	生徒に学習進行状況調査票を配付することで 生徒自らが学習の進行状況を確認することが できるようになった。そのため生徒が担当教 科科目の先生に声をかけ、相談をする姿が、 スクーリング日ごとに見られるようになって きた。教員より生徒への学習支援や励ましを 伝えることで、主体的に学習に取り組めるよ うに支援していきたい。 生徒会と連携し学校行事の企画段階から生徒 の実態に応じた内容となるように、さらに、 生徒が参加しやすい行事運営に努めたい。	Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について ・今年度は感染防止のためにＩＣＴを 活用した学びの工夫が見られた。さら に生徒のために積極的に工夫し、意欲 的に学習に取り組めるようにしてほし い。 ・スクーリングに出られない生徒や家 庭でのレポート学習ができない生徒が いる。生徒の学習進捗状況を生徒と先 生が共有し、個別指導を通して自学自 習ができるように生徒を支援してほしい。	個々の生徒の学習進捗状況を生徒と教員が共有 し、生徒自らが学習進行状況を把握し、主体的 かつ計画的に学習を進められるように支援をす る。特に家庭学習を支援するため平日登校を奨 励するなどを行い、個別学習指導を深化する。
		④特別活動（LHR・学校行事・生徒会 行事など）に満足していると思ってい る生徒が８０％以上である。	A	A	A			
	3 生徒は確かな学力を身 に付けていますか。	⑤自らの学習活動（レポート学習及 びスクーリング授業）に満足してい る生徒は８０％以上である。	C	C	C	思うように学習をすすめられない生徒にレポ ート提出を促す指導を行ったり、面接指導へ の出席を促す個別の学習支援を行うことで単 位修得に至るように学習指導をした。	Ⅲ 生徒の充実した学校生活について ・大人も含め、生徒にとっても、ＳＮ Ｓはなくてはならないものとなった。 生徒への指導に活かせるように工夫し てほしい。 ・交通指導では、事故に万一あったと きの保険加入や、事故防止の観点から 交通ルール等について指導を継続して ほしい。 ・さまざまな行事を楽しみにしている 生徒が多いように思う。生徒が学校行 事に主体的に関われるように工夫して ほしい。	本校への帰属意識を高めるため、行事内容を見 直し、主体的に参加する生徒が多くなるよう に努める。 主体的に対話的な深い学びの視点に立った指導 の実践を進める。自学自習が思うようにいか ない生徒への学習支援の方法に課題がある。個 々の生徒に応じた学習指導を推進したい。
Ⅲ 生徒の充実し た学校生活につ いて適切な指導 をしていますか。	4 組織的・継続的な指導 を行っていますか。	⑥集団の中でお互いを尊重し、マナ ーを守り、清掃等の活動に協力して いる生徒が８０％以上がある。	A	A	A	集団生活におけるマナー等の周知に努めた。 さらに問題行動発生時の段階的な指導を充実 させるべく、全教職員で共有理解のもとでの 指導する体制づくりを行った。 些細な生徒の変化について情報を職員間で共 有し、共通理解をし、指導をすすめた。	Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について ・生徒一人一人が入学時から卒業する までの自らのロードマップを持ち学習 を継続する途上で、自らの進路実現に ついて考えを深め、継続した努力がで きるように指導をしてほしい。	職員の体制づくりは継続して行くとともに、生 徒会を中心に生徒主体の活動を通してマナーの 意識向上を図る。 ＳＮＳ等に頼らない人間関係づくりを目指し、 生徒会を中心に生徒への呼び掛けを継続し一層 の推進を図る。 学校生活アンケート等の活用。職員間で情報交 換や共通理解の上での支援をおこなう。生徒か らの相談しやすい環境作りをおこなう。
		⑦学校からの指導（講演会・桐高通 信・スマホルール等）を通して、Ｓ ＮＳ等の危険性について理解が深ま ったと思う生徒は８０％以上である。	A	A	A			
		⑧質問や心配なことがあるときに先 生に相談しやすく、先生は誠実に対 応してくれると思う生徒が８０％ 以上である。	A	A	A			
	5 学校はいじめ防止や早 期発見に向けた取組を積極 的に行っていますか。	⑨学校でおこなういじめ予防の取り 組みやいじめに関する調査が適切に 行われていると思う生徒が８０％ 以上である。	A	A	A	アンケートによるいじめの件数は零であつた。 いじめの認知基準等の職員研修や、学校での 実態について月報「桐高通信」で家庭や保護 者の情報の提供を行った。 健康アンケートを活用し気になる生徒につい て職員間で生徒情報を共有し不測の事態に備 えた。危険箇所について声を掛け合い注意を 促し事故防止に努めた。	Ⅴ 開かれた学校づくりについて ・地域からの桐生高校への期待は高い と思う。生徒たちのがんばりを情報発 信することで学校への理解者を増やし てほしい	いじめの認知基準を再確認し、職員の共通理解 を深める。いじめの未然防止早期発見及び早期 対応に組織的に取り組む。 生徒が安心して学習できる環境を作る。健康ア ンケート等を活用し、職員間で研修等を行い、 共通理解の上で支援をおこなう。充実さる。
	6 生徒は健康で、規則正 しい学校生活を送っていま すか。	⑩あなたの学校での生活は安心で快 適であり、体調不良になった時には 適切に対応してくれると思う生徒が ８０％以上である。	A	A	A			
Ⅳ 生徒の主体的 な進路選択につ いて適切な指導 をしていますか。	7 個に応じた計画的な指 導を行っていますか。	⑪進路についての情報が学校から適 切に提供されていると思う生徒が８ ０％以上である。	A	A	A	月報「桐高通信」等での進学や就職に関する 情報発信を行った。	Ⅵ 教育のデジタル化について ・ICTを活用した本校の魅力をアピ ールする方法を模索してほしい。	進路情報の充実・精選を図り、実情に合った内 容提供を図る。月報「桐高通信」を通しての情 報提供や、進路関係の行事を再度見直す。 進路説明会・進路講演会等では、実際の進路活 動に活かすことのできる内容・自己実現へと繋 がる内容を意識し、企画運営をする。 生徒の進路に対する意識や希望の実態把握に努 める。具体的な行動に結びつかない生徒や登校 機会の少ない生徒への進路指導が課題である。 教員全体で連携し、より一層生徒一人一人に応 じた指導を行う。
		⑫進路説明会や進路講演会等は進路 を考えるうえで役立っていると思う 生徒が８０％以上である。	A	A	A			
	8 生徒は自らの進路（キ ャリア）について真剣に考 え、その実現に向けて取り 組んでいますか。	⑬進路実現に向けて積極的に取り組 んでいると感じている生徒が８０％ 以上である。	C	C	C	登校する卒業希望生徒への声をかけをし、生 徒の声に耳を傾け、実態把握に努めた。個別 の指導を要する生徒は多いので、生徒から得 た情報を共有し通信制教職員が一致して指導 を行っていききたい。		
Ⅴ 開かれた学校 づくりに努めて いますか。	9 家庭、地域社会に積極 的に情報発信をしています か。	⑭月報「桐高通信」には、学習や学 校生活に必要な情報は提供されてい ると思う生徒が８０％以上である。	A	A	A	内容・構成・発送時期の改善を進めながら、 月報「桐高通信」を計画どおり発行した。	Ⅶ 教育のデジタル化について ・ICTを活用した本校の魅力をアピ ールする方法を模索してほしい。	発行日や発行回数は維持しつつ、特に行事予定 を伝える紙面を中心に、その充実を図る。 webサイトの更新を計画的に行い、生徒のニ ーズをつかみ、表現の工夫を図る。
		⑮桐高通信制のウェブサイト(ホーム ページ)で情報は適切に提供されてい ると思う生徒が８０％以上である。	A	A	A			
Ⅵ 教育のデジタ ル化に努めてい ますか。	10 ICTを活用した指導を 行っていますか。	⑯ICT機器を活用した学習活動（スク ーリング授業等）によって、学習内 容が分かりやすくなったと思う生徒 が８０％以上である。	A	A	A	ICT機器を活用した授業実践をするように、さ らに促し、効果的な活用に向けた研修に努め たい。		授業実践の場でのICT機器の効果的な活用を模 索する。
	11 ICTを活用した業務改 善を行っていますか。	⑰ICT機器を活用した情報伝達（w e bページ・一斉メール）によって、 学校からの連絡等が理解しやすくな ったと思う生徒が８０％以上である。	A	A	A			

※ガイドライン：「高等学校通信制教育の質の確保・向上のためのガイドライン」（令和3年3月一部改定）参照

